

ALUMINIUM NEWS

アスカ工業株式会社アルミニウムニュース

第 632 号

2014年 2月 1日

発行

アスカ工業株式会社

〒444-0303

西尾市中畑町卯新田上28

特 別
寄 稿

年 頭 所 感

“日本にしか出来ない”が大切

中部ダイカスト工業協同組合理事長 松尾 精 介

新年あけまして、おめでとうございます。2014年の新年を、ご健康で迎えられたことと心よりお祝い申し上げます。

さて、現状の日本経済に目を向けますと、まだまだ我々ダイカスト・メーカーの経営を取り巻く環境は、依然として大変厳しいものがあります。

安倍晋三政権の発足から1年以上が経過致しました。

「アベノミクス」の施行により、金融が大幅緩和され円安・株高になり景気はほぼ順調に回復基調にあると云われています。但しそれは大手自動車メーカーや、tier1（ティア・ワン）メーカー等の輸出関連産業であり、為替の円安効果による売上増加で収益が大幅に改善されているものであります。

tier2以下の我々国内の中小企業については売上増加はあまり見られず、むしろ円安による輸入品の高騰が悪影響を及ぼしています。

アルミ等の主要資材・副資材は値上り、電気・ガス等のエネルギー・コストも上昇している為、

収益を大幅に圧迫しています。更には、得意先からの要求品質がこれまで以上に高くなってきている為、生産のやり直しや過度のチェックによる人件費の増加や新規・更新の設備投資をやらざるを得なくなっており、製造原価は増大する一方であります。

加えて、熾烈なグローバル競争の中、ユーザーへの価格転嫁は難しく、反対に我々仕先に対しての製造原価の効率化要請は依然と強くなり、売上単価の下落が一掃の厳しさを追い打ちしているのが現実であります。

それでも「アベノミクス」の“理想のシナリオ（善のスバイラル）”は、

①金融緩和等の「三本の矢」⇒②円安誘導⇒③輸出産業の増加⇒④大手企業の業績上昇&株高⇒⑤雇用・所得の拡大⇒⑥消費・設備投資の拡大⇒⑦物価上昇（インフレ）⇒⑧内需（国内）産業=中小企業の収益増加⇒⑨本格的景気回復

であります。現在の段階は、確かに④～⑥のステージに入ろうかという段階です。緩やかですが着実にシナリオ通りのステージを、「アベノミクス」は踏んでいくことと予想されます。

⑧の中小企業（内需産業）の収益増加までは、もう少し時間は掛りますが、確実に波及して行くものと大いに期待したいと思います。

幸いにもダイカスト・メーカーには、永年に渡り培った「ものづくりの技術の蓄積」があります。世界に誇れる自動車産業におけるパイオニアとしての「先進的な技術革新」があります。

それを支えてきた「カイゼン」という生産現場における創意工夫のノウハウもあります。日本にしかできない高品質の付加価値のあるダイカスト製品を作ることが大切です。

決してナンバー・ワンでなくとも、オンリー・ワンのものづくりを実現していくことがストップ産業空洞化に繋がるものだと思わず疑いません。

本年も元気で企業活動に邁進されることを祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

（ダイキャスト東和株式会社 代表取締役）



第30回 商売繁昌・交通安全 祈願会

1月17日 三ヶ根観音

新春恒例の商売繁昌・交通安全祈願会は、1月17日金曜日、三河湾国定公園吉良海岸の吉良観光ホテルに於いて開催された。

今回は第30回の記念すべき祈願会となった。アスカ工業株式会社の原料納入事業所と輸送その他の関連事業所の代表80名は、午後3時より同ホテル会議室において天野久会長の「午年を占う」と題す新春放談会を開催した。

引きつづきバスで三ヶ根山頂の三ヶ根観音に参詣、平成26年の商売繁昌と交通安全の祈願会を行った。三ヶ根観音堂守は厳かに護摩を焚き、音吐明々般若心経を誦し、参詣者一名一名の住所氏名を高らかに名乗り、七難即滅、七福即生を一心に祈願した。

そしてお札とお供物を拝受して下山した。三河湾の絶佳の眺望は眼下にひろがり、真赤な夕日をあびて一同平成26年の開運招福はうたがいがい無しとの自信を深めた。

入浴小憩後、6時30分より大広間に参集の一同は、盛大に新年宴会を催し、その後2次会はナイト・サロ

ンに席を移動して、カラオケを夜半まで熱唱して大きな盛り上りを見せた。

かくして盛大な新年宴会を目度く終了し、一泊してお開きとなった。さらに、吉例の新春アスカ杯ゴルフ・コンペは、18日午前吉良カントリー・クラブで熱戦が展開された。



↑天野久会長の新春放談



←大宴会場の天野卓社長開宴の挨拶

新春放談

日本人と英語

アスカ工業株式会社 取締役会長 天野 久

英語教育の改革案

昨年末に、文部科学省が小学校における英語教育を正課として実施し、これに対応して中学校、高等学校の英語教育もレベル・アップすると発表した。

これによれば、小学校では3年生と4年生に対して2018年4月から1週1～2回担任教師による初級入門授業を開始する。5年生と6年生に対しては2019年4月から1週3回資格を持つ担任教師又は英語専任の教師による正課として学習を義務づける。

中学校および高等学校においては、2020年4月から英語の授業は基本的には英語のみで行なうものとし、高等学校では英語の討論が可能にしたいと云う。

この目的は、「国際化に迫るため」(to pursue globalization)としている。

改革案をめぐって

この英語教育改革案に対する反応が大そう面白い。本日のスピーチに取り上げたいと思いついたきっかけは、何気なく耳に入った老人(男子)数人の気軽な会話に始まる。

老人たちは大そう陽気に、「小学校の授業で、間もなく英語が正課で教えてもらえる。これで孫たちは英語がペラペラになれる。」と話し合っていた。

これを聞いて驚いた。私自身の受けた学校における英語教育について、莫大な時間とエネルギーを消費した結果としては著しく不満足で、いろいろな問題の存在することを考えさせられてきた。

そこで、この問題について世間の反応を調べて見たところ、慎重な意見が多く、専門家になると一層異見が多いようである。

英語教育の目的

日本における英語教育の目的は何か？文部科学省いわく「国際化に対応できること」。私には何を云っているのか全く理解ができない。「国際化」は英語でGlobalizationまたはInternationalizationと云うようであるが、私の手許にある研究社新英和大辞典(1979年版)にはそのような言葉は見当らぬ。

国際化とは国粋化の対照語と考えられ、国という概念を捨てようとする新日本語で、このような大義のために学校で英語を教え、英語を学ぶとは考えにくい。

私の考える英語学習の目的は、中学校では高校入試

の合格、高等学校では大学入試の合格で、これ以外に目的はない。その上、入学試験の英語問題は、コンピュータ採点の大量処理のために作られる問題で、非現実的、非実用的、無味乾燥で極めて悪評が高い。

私が出題するなら、高校入試は「My teacher」、大学入試は「Abe's Yasukuni visit」で自由作文を書けとしたい。何割かは白紙答案かも知れぬ。採点は文字の多さだけで判定できる。

外国語学習の歴史

日本人が外国語を修得する目的は、歴史的に先進国からの文物を輸入しようとするものであった。随・唐からの輸入のための漢文、明治維新後の西欧からの輸入のための英・独・仏語、そして第2次大戦後はアメリカから輸入のための英(米)語。

いづれも一方的に輸入で、輸出は殆んどなく、これは国際交流とは云えない国際直流と云うべき歴史である。しかしこのような時代は過去となり、今日、日本は反対の立場に立つことになって、日本事情の発信と、日本の文物を輸出すべき時代を迎えた。

この新時代への対応の最初は、英語教科書の内容の全面改革である。今までの英米事情の紹介の内容を改めて、日本の歴史、日本の現状を中心に改め、日本事情の発信、紹介が容易になるような工夫が是非先ず必要と思う。

日本人に英語は必要か

日本人が日本で普通の生活をする上で、英語の必要は全くない。従って「すべての日本人が英語ができなくてはならぬ」という妄想から脱却した方が良いと考える。

中学校・高等学校における正課としての英語を廃止すれば、日本人の英語コンプレックスが一掃される。中学校・高等学校ではクラブ活動で自由に、英語、中国語、韓国語、マレーシア(インドネシア)語、タイ語など探り上げたら面白い。案外、義務教科として強制される学習より面白い成果が得られるようにも考えられる。

外国語が出来なくては困る人、又は将来そのような職につきたい人に限って質量共に現状以上に集中する必要がある。

英語1ヶ国語のみに集中する時代ではない。

30回皆出席

斗野文雄氏に記念品

第30回商売繁昌・交通安全祈願会の大新年宴会の席上・30回皆出席の斗野文雄氏（廣産金属・豊橋市）に記念品が天野卓社長から贈呈された。（写真）

全30回皆出席者は斗野文雄氏ただ1名で出席の皆さん一同から大きな祝福が寄せられた。おめでとうございました。



社 内 情 報

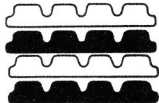
- ◎第30回商売繁昌・交通安全祈願会は盛大に挙行することができ、ご参加各位に厚くお礼を申し上げます。
- ◎新春ゴルフ・コンペは次の皆さんが入賞されました。
 - 優 勝 西尾 健氏（西尾金属）
 - 準優勝 吉田 寛氏（岡谷鋼機）
 - 3 位 森田康博氏（松島金属）
 - B B賞 大竹吉彦君（社内）
- ◎皆さん、大へんお目出とうございました。

編 集 後 記

- 中部ダイカスト工業協同組合松尾精介理事長様には年頭で格別にご多用のところ、昨年に引きつづき特別寄稿のご執筆をいただきました。心から厚くお礼を申し上げます。
- 業界多端の折柄、一段のご活躍をいただきますようお願いいたします。
- ダイカスト業界、鋳物業界ともに高操業で新春を迎えました。まことにご同慶の至りです。

アルミ缶リサイクリング
鋳造用アルミニウム合金地金

アルミニウムそのものでは強さ、加工性などの点で不十分で、銅、シリコン、マグネシウム、亜鉛、鉄、マンガ、ニッケル等を用途に応じて添加合金しますと、非常に優れた強さ、鋳造し易さ、加工し易さ、耐熱性などが得られます。添加金属は非常に微量の場合もあり、そのため厳重な品質管理が要求されます。当社では発光分光分析装置を使用して、迅速・正確な品質管理の下で非常に優れたアルミニウム合金を作り、日本の産業の発展に寄与しています。



ISO 9001 審査登録

アスカ工業株式会社

〒444-0303
愛知県西尾市中畑町卯新田上28
TEL <0563> 77-0500 ㊟
FAX <0563> 77-0501
<http://www.al-asuka.jp/>